

## 日本臨床外科学会 国内外科研修報告

### 虎の門病院消化器外科での研修を終えて

那覇市立病院外科

上江洲一平

この度、日本臨床外科学会国内外科研修として、2018年8月20日から8月31日の約2週間、虎の門病院下部消化管外科で研修をさせていただきました。

始めに、貴重な研修の機会を与えてくださった日本臨床外科学会の跡見裕会長、国内外科研修委員会委員長の高山忠利委員長をはじめとした委員の先生方、ご推薦いただきました沖縄県外科会会長の城間寛先生、そして、研修を受け入れてくださった虎の門病院下部消化管外科の黒柳洋弥先生をはじめとした先生方、スタッフの皆様に深く御礼申し上げます。

私が、虎の門病院下部消化管外科について知ったのは、日本臨床外科学会による「第2回 次世代の臨床外科医のための特別セミナー」での虎の門病院の戸田重夫先生のご講演がきっかけです。2014年に日本臨床外科学会のホームページを通して講演をお聞きしましたが、年間約400例の下部消化管外科手術をほぼ全例腹腔鏡下で施行しているということを知りとても衝撃を受けたことを覚えています。さらに、戸田先生の電気メスでsharpに切離を進めていく素晴らしい手術ビデオに感動し、当時の私にとっては別次元の世界でしたが、とても衝撃的だった印象がずっと残っておりました。その後、2018年2月に「第6回 次世代の臨床外科医のための特別セミナー」に参加させていただき、大変勉強になりました。さらに、日本臨床外科学会による国内外科研修制度があることを知り、当院外科総括部長の宮里浩先生に相談し、この研修に申請させていただきました。私自身、ここ数年、腹腔鏡手術特に大腸癌に対する手術でなかなか技術が向上せず悩んでおりました。そのような中、研修施設の中に虎の門病院下部消化管外科がありましたので、迷わず希望させていただきました。

虎の門病院下部消化管外科は、週間スケジュールとして、月曜日と木曜日に消化器外科全体、金曜日に下部消化管外科のカンファレンスがありました。カンファレンスでは初期研修医とレジデントを中心にプレゼンテーションを行い、治療方針の確認・決定がなされておりました。そのプレゼンテーションはしっかりとまとめられており、私自身のプレゼンテーションの仕方の参考になりました。

毎日朝と夕に病棟回診があり、朝は7時半から回診が始まります。部長の黒柳先生が毎朝患者さん一人一人の顔を見ながら診察され、丁寧に質問に答えておりました。病棟患者数は常に50~60名おりましたが、黒柳先生はすべての患者さんを把握されており、多忙であるにも関わらず、回診を急ぐことはなく、必ず足を止めて患者さん一人一人と接しておりました。その姿にとても感動しました。また、この大人数の患者さんをしっかりと把握できるのは、チーム力だと感じました。今回の研修では初期研修医、レジデントにお世話になることが多かったのですが、ともに行動し感じたことは、彼らが全患者の細かな状態、検査結果を把握し、治療方針を上級医とともに決定するというスタイルが確立しており、結果としてチーム全体で全患者を把握しておりました。2週間という短い期間でしたが、毎日回診に同行させていただくと、患者さんが黒柳先生を中心としたチームをとっても信頼している雰囲気を十分に感じました。また、初期研修医、レジデントは大人数の患者さんの把握、多くの手術がある中、処置(PICCやCV挿入)を行っており、術後の消化管造影検査だけでなく術前の検査まで自分達で行っておりました。処置もスムーズで大変驚きました。

手術は平日毎日行われており、可能な限り多くの手術を見学させていただきました。手術時間は圧倒

的に短く、1日に複数件手術をこなす年間400-500症例という多くの手術が行われておりました。手術はもちろん早いだけでなく、定型化されており、かつ、繊細な手術が行われておりました。上級医の先生方の手術が素晴らしいのは言うまでもなく、私より経験年数の浅い先生方も私よりはるかに繊細な手術を行っているのを目の当たりにし、とても驚き非常に刺激を受けました。アドバイスもたくさんいただきとても参考になりました。手術は、黒柳先生の指導が徹底しており、「A層、B層」など適切な層を把握すること、脂肪組織がどこに属しているのか確認して切離すること、特に驚いたことは、1mmもの剥離ラインの違いも徹底して確認していることでした。その意識づけが結果として繊細かつ正確な手術を可能とし、スピードにもつながっているのだとわかりました。視野展開の仕方、執刀された先生方の手の使い方など技術面で参考になる点が多々あり、私ももっとトレーニングしなくてはと反省しました。術中に黒柳先生が繰り返し指導されていたことを強く意識すること、そして、当院メンバーにも伝えることが今後の当院での手術の向上につながるのではないかと感じました。定型化された大腸癌手術を多数見られたことでも満足でしたが、側方郭清など高難易度手術も見られたことは大変勉強になりました。

今回の虎の門病院下部消化管外科での研修を通して特に感じたことは、チームがとても明るい雰囲気です。診療を行っていることでした。数多い手術症例、病棟患者、他の業務もあり多忙であるにも関わらず、黒柳先生を中心に皆が毎日笑顔で、とても楽しそうに診療をしておりました。手術中も静かに手術をするのではなく会話をしながら意志の統一を図り手術を進めており、腹腔鏡手術なので術野外からも3D画面を見ながら指導が入るなどとても和気あいあいとした雰囲気で手術を行っておりました。なんて素晴らしい環境なんだと感じました。

この約2週間の研修は私にとって非常に貴重な経験となりました。最前線の施設で研修できたこと、手術における細かな技術面を学べたことはもちろんのこと、腹腔鏡手術に対する意識が変わったと思います。すぐにすべてを実践することは難しいと思いますが、指導していただいたことを意識していこうと思います。当施設のある沖縄県は、県内に特にハイボリュームな病院はなく、地理的な条件からもなかなか内地の病院を見学するというのは難しい環境にあると思います。そのような中、今回研修できたことは非常に幸運だと感じております。今後、若手外科医（特に沖縄県）にはこの素晴らしい制度を積極的に利用して研修していただきたいと思います。

最後に、今回研修するにあたりご協力いただきました当院スタッフの皆様、誠にありがとうございました。今回の貴重な経験を活かし、今後も精進して参ります。



写真1：親睦会

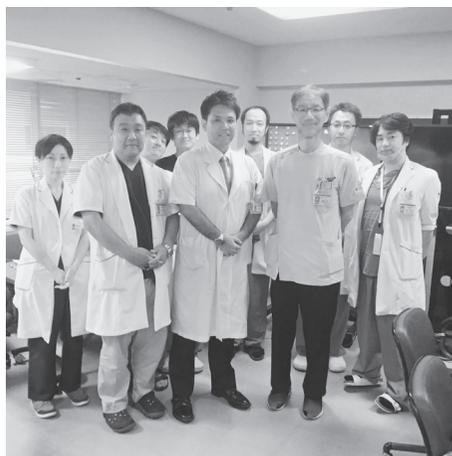


写真2：カンファレンス後